

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 8 年 1 2 月調査結果 - -

(平成 1 8 年 1 2 月 2 7 日)

調査期間：平成 1 8 年 1 2 月 1 4 日～ 2 0 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4
小売業 7 3 9 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

冬物売上低迷や仕入コスト高により業況D Iのマイナス幅は3カ月ぶりに拡大

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（24.5）よりマイナス幅が0.7ポイント拡大して25.2となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別の業況D Iは、建設、卸売でマイナス幅が縮小したものの、他の3業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、公共事業の減少や競争激化、暖冬の影響等による冬物の売上低迷など業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、先行き不透明感を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「業況は依然として厳しいが、年度後半の受注に期待している」（一般工事）との声がある一方、「公共工事の削減は地方の中小規模の建設会社に大きなダメージを与えており、事業縮小に伴う人員解雇が行われた例もある」（建築工事）、「民間企業の設備投資が不調で、顧客からの見積り依頼が大幅に減少している」（土木工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「全般的に高水準で安定した操業を続けており、先行きにも不安材料は見当たらない」（金属加工機械製造）との声がある一方、「客単価が一向に上がらず、個人消費は依然として低い水準で推移している」（パン・菓子製造）とのコメントのほか、「原油価格高騰により燃料やパルプ、古紙などの仕入コストが上昇するなど、厳しい状況に陥っている」（紙製造）と、仕入コスト上昇による影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「今月の売上は前年同月比で横ばいだが、先行きは増加すると考えている」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「同業者間における競争激化等による販売単価下落や仕入コスト上昇により、採算の悪化を訴える企業が増加している」（各種商品卸売）とのコメントのほか、「少しずつではあるものの、借入金利の上昇が資金繰りを圧迫し始めている」（鉱物金属材料卸売）との声も寄せられている。

【小売業】では、「当商店街の飲食店やホテルは、忘年会や新年会、さらには団塊世代による同窓会の予約が好調で売上が増加する見込み」（商店街）との声がある一方で、「気温が平年レベルまで下がらず、衣料品の売上が苦戦している」（百貨店）、「12月に入ったが気温は下がらず防寒用衣料の売れ行きが悪いとともに、年末商戦も先行きが見えない状況にある」（百貨店）と、冬物商品の売上低迷を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「宿泊者数は横ばいで推移したものの、日帰り客の増加や土産品、飲食部門の売上増加により、温泉町全体の業況は好調と判断している」（旅館）との声がある一方で、「宅配便事業は他社の参入により競争が激化して売上が大幅に減少するとともに、トラック輸送事業でも原油価格高騰による燃料費の増加が収益を圧迫している」（その他サービス）とのコメントも寄せられている。また、「忘年会の予約件数は年々減少傾向にある一方、年末年始の宿泊予約は好調だが、今後はノロウィルスの流行による牡蠣料理目的の来店者数減少が懸念される」（旅館）と、食中毒の流行による影響を訴える声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が0.5ポイント拡大して17.6となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値は建設、卸売、小売でマイナス幅が縮小したものの、サービスで拡大し製造でマイナスに転じた。

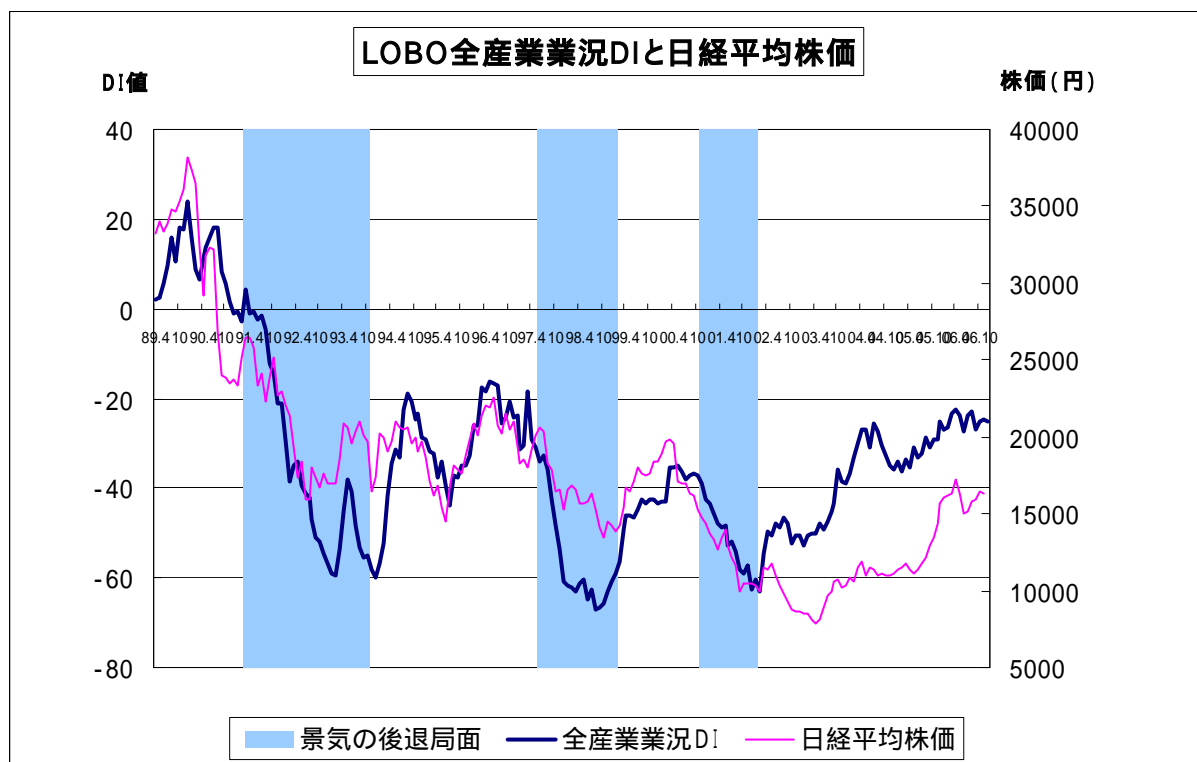
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が1.0ポイント拡大して25.6となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、小売で縮小したものの、他の3業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が1.0ポイント強まって17.6となり、2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感サービスで弱まったものの、他の4業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が1.6ポイント強まって26.0となり、4カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値の上昇超感小売で弱まったものの、他の4業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、不足超感が2.3ポイント強まって2.7となった。産業別にみると、DI値は建設、卸売で過剰超感が弱まり、他の3業種で不足超感が強まった。

向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が25.3と、昨年同時期の先行き見通し(23.1)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（24.5）よりマイナス幅が0.7ポイント拡大して25.2となり、3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別にみると、建設、卸売でマイナス幅が縮小したものの、他の3業種で拡大した。

向こう3カ月（1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が25.3と、昨年同時期の先行き見通し（23.1）に比べて悪化している。

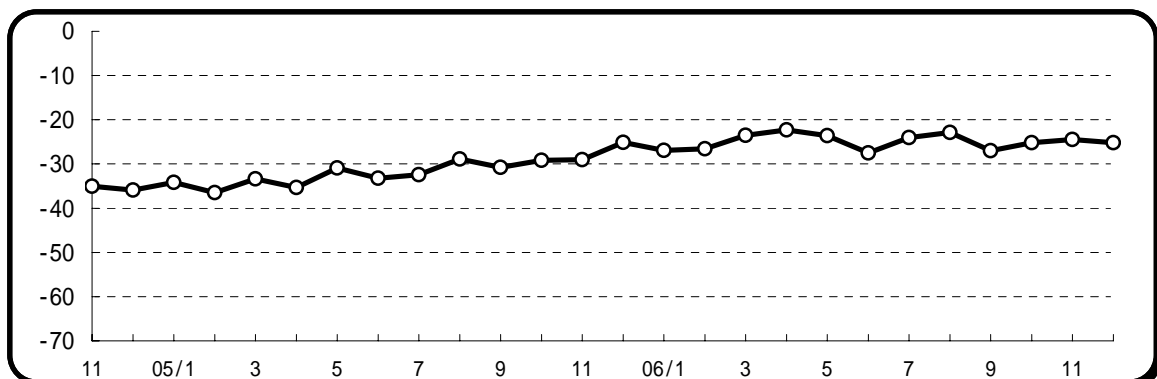
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、全業種でマイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	24.0	22.9	27.0	25.2	24.5	25.2	25.3 (23.1)
建設	36.5	34.8	43.1	38.1	39.6	34.4	36.5 (35.3)
製造	8.3	12.8	14.3	13.4	11.3	15.2	17.2 (16.6)
卸売	31.8	30.5	32.9	34.4	36.6	31.3	32.3 (28.0)
小売	22.4	19.7	22.0	23.1	22.8	25.6	20.9 (20.8)
サービス	31.4	26.7	33.3	28.1	25.7	27.0	29.0 (22.9)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年12月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.5ポイント拡大して17.6となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値は建設、卸売、小売でマイナス幅が縮小したものの、サービスで拡大し製造でマイナスに転じた。

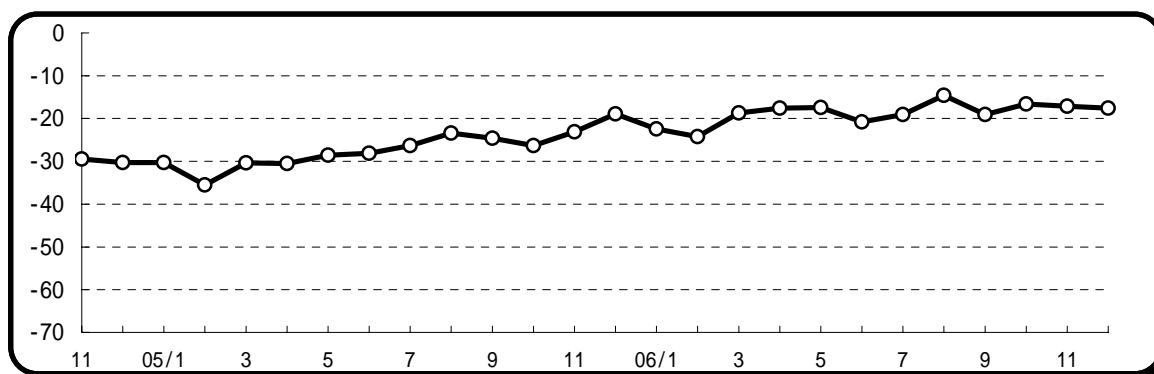
向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が21.1と、昨年同時期の先行き見通し(20.2)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設、卸売でマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	19.1	14.6	19.1	16.6	17.1	17.6	21.1 (20.2)
建設	30.9	28.9	34.4	29.6	32.4	27.3	29.8 (36.4)
製造	3.2	3.7	4.8	1.2	2.9	4.2	12.8 (10.4)
卸売	25.5	19.5	20.9	22.9	30.7	22.5	25.9 (28.0)
小売	20.9	14.9	18.3	17.0	20.7	19.5	18.2 (17.6)
サービス	23.4	14.9	23.7	23.8	18.3	20.9	25.8 (20.2)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.0ポイント拡大して25.6となり、3カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、小売で縮小したものの、他の3業種で拡大した。

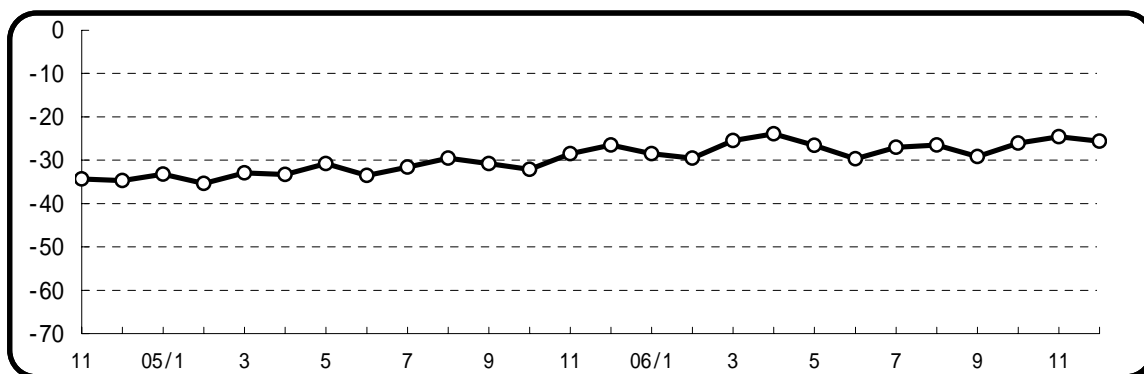
向こう3カ月(1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が24.0と、昨年同時期の先行き見通しと比べて横ばいとなっている。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売でマイナス幅が縮小し、他の4業種で拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	27.0	26.5	29.2	26.1	24.6	25.6	24.0 (24.0)
建設	37.1	39.8	45.2	42.0	43.8	43.0	36.9 (34.9)
製造	17.9	23.6	25.9	21.7	16.2	18.8	19.4 (19.2)
卸売	32.5	25.6	22.8	29.3	29.4	30.6	25.3 (24.2)
小売	23.0	18.5	20.6	18.7	19.1	18.5	16.7 (21.7)
サービス	32.6	31.3	34.9	27.8	25.5	27.8	28.5 (24.9)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	17.7	16.9	18.5	19.2	16.6	17.6	17.4 (17.4)
建設	28.9	27.6	30.3	30.8	27.3	29.5	31.9 (29.9)
製造	10.9	11.8	13.3	15.2	12.7	13.9	13.5 (14.0)
卸売	15.8	14.6	11.4	18.2	14.5	19.3	16.1 (13.2)
小売	15.0	13.3	14.4	16.2	12.5	13.6	12.1 (13.7)
サービス	21.8	20.3	23.7	18.7	18.9	17.1	19.0 (19.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、サービスで悪化超感が弱まったものの、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が横ばいとなる見通し。産業別にみると、製造、小売、サービスで悪化超感が弱まり、他の2業種では強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	28.5	31.2	30.0	27.1	24.4	26.0	19.7 (16.3)
建設	38.6	42.0	35.1	34.2	35.6	38.0	28.0 (22.3)
製造	42.3	45.6	47.6	40.7	41.4	42.9	29.8 (26.1)
卸売	36.9	36.0	36.7	34.4	24.2	27.5	22.2 (11.2)
小売	14.3	16.0	14.8	12.7	10.9	8.7	9.2 (9.1)
サービス	21.2	25.5	24.4	23.0	16.3	20.4	15.1 (12.6)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が4カ月ぶりに強まった。産業別にみると、小売で上昇超感が弱まったものの、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、全産業で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	1.4	0.5	1.1	0.2	0.4	2.7	1.1 (4.0)
建設	18.2	17.1	16.4	14.7	13.4	12.9	12.2 (16.5)
製造	0.7	3.2	0.2	1.9	3.2	3.9	4.1 (6.7)
卸売	8.9	7.3	5.7	3.2	3.3	1.3	9.0 (7.2)
小売	6.6	5.4	4.7	5.9	5.5	8.2	5.9 (0.7)
サービス	1.0	2.0	2.5	1.2	1.7	7.0	4.6 (2.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計は不足超感が強まった。産業別にみると、建設、卸売で過剰超感が弱まり、他の3業種で不足超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まる一方、建設、製造で過剰超感が弱まり、小売、サービスで不足超感が強まる見通し。

【平成18年12月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好転、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「増改築工事が増加しており、業況は好転していると感じている」(唐津・建築工事)、「受注が増加するとともに、販売単価の改善も同時に進行していることから、業況は好転していると判断できる」(横浜・他の輸送用機器製造)とのコメントが寄せられている。また、「売上が対前年同月比で伸びてきており、今後、本格的な回復を期待している」(焼津・農畜産水産物卸売)、「お歳暮の客単価は、わずかではあるが上昇している」(松山・百貨店)との声のほか、「来年の2月から3月にかけて車検の受注が増える見込みであり、若干ではあるが先行き見通しは明るい」(帯広・自動車整備)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事や宴会予約件数の減少、消費の低迷など業況低迷、仕入コストや人件費など経費の増加による採算悪化を訴える声も寄せられている。建設、製造からは「公共工事の減少に歯止めがかかる気配はなく、各業者とともに売上の減少傾向は今後も続くと思われる」(土佐清水・土木工事)、「原材料の仕入コストや人件費が徐々に上昇しており、採算を悪化させている」(長岡・鉄素形材製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「歳末商戦をきっかけに個人消費が回復するのを期待していたが、苦戦を強いられている」(倉吉・農畜産水産物卸売)、「冬物商品に動きが見られるものの、商店街全体としては、業況は低迷している」(土別・商店街)、「年末年始は1年で最も忙しい時期であるはずだが、忘年会、新年会ともに予約は著しく減少している」(甲府・すし店)とのコメントが寄せられている。

冬物の売上低迷

また、暖冬の影響等による冬物衣料品の売上低迷を訴えるコメントが寄せられている。卸売からは、「暖冬により冬物衣料品の売上が不振に陥っており、在庫増加と資金繰りの悪化を懸念している」(佐世保・繊維品卸売)との声が寄せられている。また、小売からは、「依然として冬物商品の売上が低迷しており、先行きも悲観的な見通しを述べる声が多い」(武蔵野・商店街)、「今年の冬の平均気温が昨年と比べて高いせいか、衣料品、食品、生活雑貨など冬物商品の売上が不振」(豊川・百貨店)との声のほか、「価格競争が激しい中で薄型ハイビジョンテレビが好調で売上高はわずかに伸びているが、暖房器具の動きは鈍い」(玉野・その他の小売)、「生鮮食品の売上は増加したものの、冬物衣料品の売上は暖冬の影響で減少した」(西条・百貨店)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
18年10月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
11月	回復への動き	悪化への懸念	暖冬予想の影響
12月	回復への動き	悪化への懸念	冬物の売上低迷

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「業況は依然として厳しいが、年度後半の受注に期待している」(一般工事)との声がある一方、「公共工事の大幅な減少と民間工事の受注競争激化により、採算が一層悪化している」(一般工事)「公共工事の削減は地方の中小規模の建設会社に大きなダメージを与えており、事業縮小に伴う人員解雇が行われた例もある」(建築工事)「民間企業の設備投資が不調で、顧客からの見積依頼が大幅に減少している」(土木工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iともに3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「全般的に高水準で安定した操業を続けており、先行きにも不安材料は見当たらない」(金属加工機械製造)「生産は高い水準を維持しており、人手不足がさらに深刻化しているとともに、新規採用も困難な状況にある」(自動車・附属品製造)との声がある一方、「客単価が一向に上がらず、個人消費は依然として低い水準で推移している」(パン・菓子製造)「原油価格高騰により燃料やパルプ、古紙などの仕入コストが上昇するなど、厳しい状況に陥っている」(紙製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは3カ月連続で拡大した。「今月の売上は前年同月比で横ばいだが、先行きは増加すると考えている」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「同業者間における競争激化等による販売単価下落や仕入コスト上昇により、採算の悪化を訴える企業が増加している」(各種商品卸売)「少しずつではあるものの、借入金利の上昇が資金繰りを圧迫し始めている」(鉱物金属材料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上・採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「当商店街の飲食店やホテルは、忘年会や新年会、さらには団塊世代による同窓会の予約が好調で売上が増加する見込み」(商店街)「今年のクリスマス商戦は、新型ゲーム機の発売により昨年同月比で好調なまま推移している」(百貨店)との声がある一方、「依然として来街者数は少なく、業況は暮れとは思えないほど低迷している一方、先行きに期待したいところだが楽観はできない」(商店街)「気温が平年レベルまで下がらず、衣料品の売上が苦戦している」(百貨店)「12月に入ったが気温は下がらず防寒用衣料の売れ行きが悪いとともに、年末商戦も先行きが見えない状況にある」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算D Iは3カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「宿泊者数は横ばいで推移したものの、日帰り客の増加や土産品、飲食部門の売上増加により、温泉町全体の業況は好調と判断している」(旅館)、「保管貨物の荷動きが前年同月比で好転しているなど、業況持ち直しへの動きが出始めており、先行きにも期待している」(その他サービス)との声がある一方、「宅配便事業は他社の参入により競争が激化して売上が大幅に減少するとともに、トラック輸送事業でも原油価格高騰による燃料費の増加が収益を圧迫している」(その他サービス)「忘年会の季節とはいえ、来店者数が非常に少なく、まだまだ業況低迷の域を脱していないと考えている」(食堂・レストラン)「忘年会の予約件数は年々減少傾向にある一方、年末年始の宿泊予約は好調だが、今後はノロウィルスの流行による牡蠣料理目的の来店者数減少が懸念される」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、近畿、中国でマイナス幅が縮小したものの、他の6ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

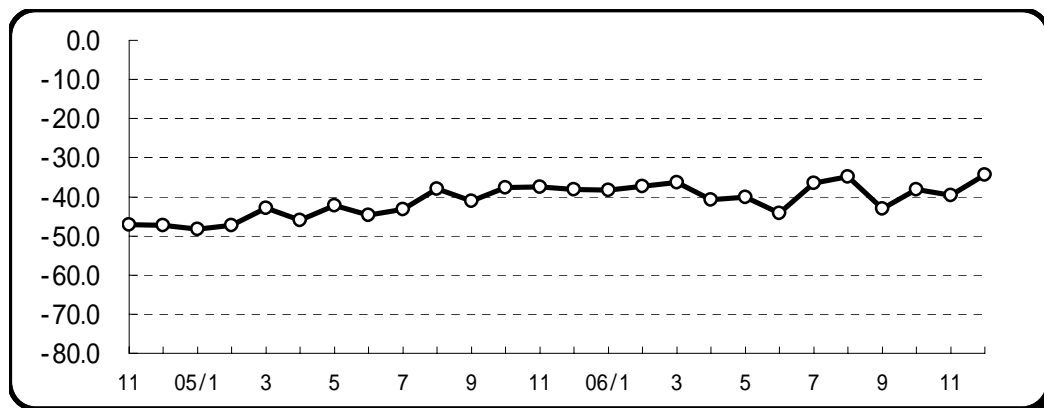
ブロック別の向こう3カ月(1月~3月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道、関東で改善したものの、他の7ブロックで悪化した。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

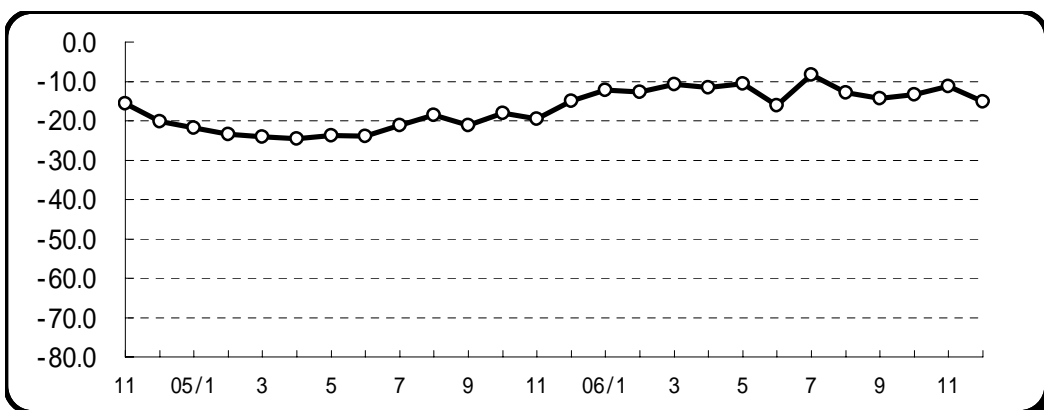
	18年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全 国	24.0	22.9	27.0	25.2	24.5	25.2	25.3 (23.1)
北海道	20.4	30.6	28.6	30.2	26.4	32.7	30.8 (32.1)
東 北	22.4	24.8	33.6	27.7	24.5	27.4	28.7 (27.1)
北陸信越	20.8	13.7	18.1	10.6	16.5	11.7	22.8 (21.4)
関 東	21.6	15.2	24.3	25.2	23.1	23.4	18.5 (18.7)
東 海	17.9	24.2	22.5	20.6	15.6	22.4	25.2 (17.9)
近 畿	30.1	29.4	29.4	24.9	34.4	26.4	27.3 (24.7)
中 国	30.0	25.9	34.3	37.8	29.4	26.5	29.8 (26.4)
四 国	38.1	35.7	36.9	35.3	32.1	38.6	38.6 (33.1)
九 州	19.1	20.7	24.2	22.8	19.8	27.0	22.5 (19.1)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

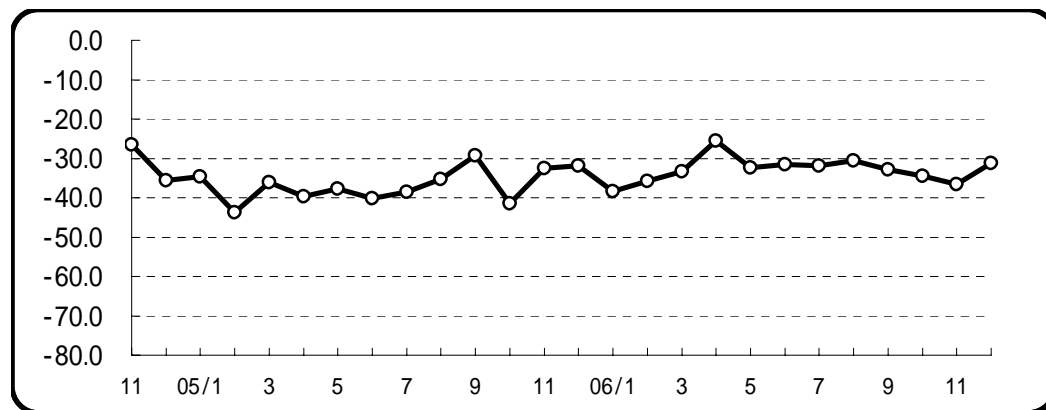
建設業



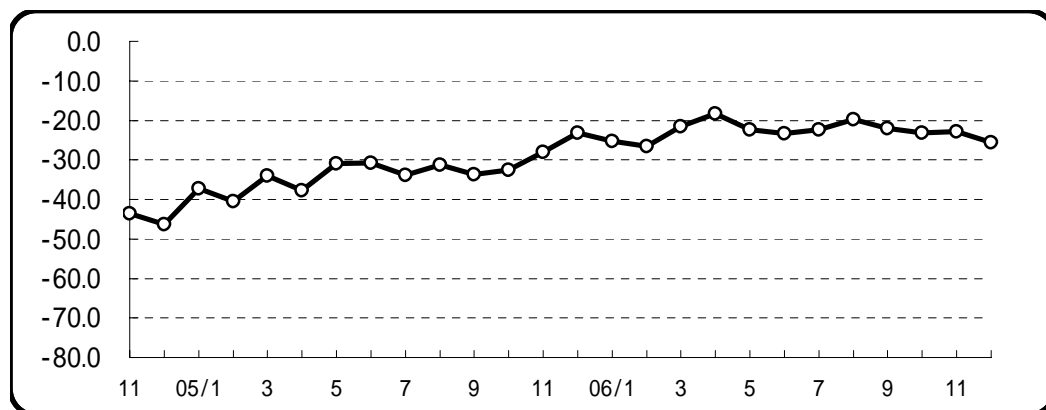
製造業



卸売業



小売業



サービス業

